

令和3年度
安来市教育委員会
点検・評価報告書

安来市教育委員会

安来市教育委員会の点検・評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（昭和31年法律第162号）第26条の規定により、教育委員会の権限に属する事務の管理及び施行状況について、毎年教育委員会が点検・評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することが義務付けられています。

これに伴い、教育委員会では課題や取り組みの方向性を明らかにし、より効果的な教育行政の推進を図るとともに、住民への説明責任を果たし、信頼される教育委員会となるため、令和3年度に実施した事務・事業について、点検・評価の結果を報告するものです。

【令和3年度の総括】

令和2年1月に国内で初の感染確認がなされた新型コロナウイルス感染症は本市においても令和3年度中を通じて収束せず大きな影響を受けた1年であった。令和3年7月に変異株デルタ株の流行により、児童生徒の感染が確認され当該小中学校は臨時休業を実施した。該当中学校では県総体への出場辞退など大きな影響があった。全国的に見ると9月末まで非常事態宣言やまん延防止等重点措置が、発令の必要性がある都道府県を単位として発令されたが、本市ではその後児童生徒の感染は防ぐことができた。また、令和3年7月より12歳以上の希望者へのワクチン接種が行われるようになった。

しかし、令和3年12月頃より感染力が強い変異株オミクロン株が流行、本市の児童生徒への感染確認が連続してみられるようになった。島根県内での感染拡大を受け令和4年1月27日から2月20日までの期間、初めてまん延防止等重点措置が県内全域に適用され、飲食店等への営業時間等の短縮などが求められた。教育委員会所管施設は休館等の対応をとらず市民サービスの維持に努めた。このような状況の中、各学校では日常生活での三密の回避、マスク着用、手指消毒、換気など予防策を徹底した。また、学校行事などは規模の縮小人数制限、ICT機器の活用など工夫を凝らし、「学びを止めない」学校経営がなされた。各学校では予防対策を徹底したが、1月から3月にかけて全校休業や一部休業を繰り返した。感染拡大の影響で、5名のALTの来日が遅れ、11月下旬に全員がそろった。

また、7月に2回にわたり記録的な集中豪雨に見舞われた。降り始めがちょ

うど登校時間帯であったため、登校や下校に混乱をもたらした。反省として、状況把握、判断、情報伝達と周知などの課題について改善を図った。文化財にも被害が見られ、復旧に力を注いだ。

安来市小中学校適正規模・適正配置の検討が本格化した。今年度は安来市教育政策推進会議を設置し、適正配置を進めるにあたり、基本的な考え方をまとめていただいた。6月以降6回の会議を開催し、12月27日、作野会長より「安来市小中学校適正配置基本方針（提言）」を受領した。その後、総合教育会議の議論を経て教育委員会で基本方針を策定し、3月1日市議会3月定例会議全員協議会です承を得た。令和4年度より条例により安来市小中学校適正配置審議会を設置し基本計画作成を諮問する予定である。適正配置については市民の関心が大変高い。本市の学校教育の目指す方向性を明確にし、よりよいあり方についての検討を丁寧かつスピード感をもって進めていくことが求められる。

安来市版のGIGAスクール構想「TRY CITY やすぎ（トライシティやすぎ）」の取組が前年度に比べ一層進んだ。ICT機器の授業での活用、小規模校同士での算数の授業でオンラインで双方の意見を交わすなどの活用が見られた。また、コロナ禍での三密を避ける対策としてオンラインによる会議や学校行事での活用が定着した。今後は主体的・対話的で深い学びにつながる活用法の研究が一層期待される。

学力については4月に国の学力調査、12月に島根県学力調査に参加した。国の学力調査では、小学6年生の国語・算数、中学3年生の国語・数学とも全国の平均正答率を下回った。県学力調査では小学5年生、6年生の国語・算数の平均正答率はいずれも県平均正答率を下回った。中学校は1年生国語・数学は県平均正答率を下回り、中学1年英語、中学2年国語・数学・英語は県平均正答率を上回った。客観的な数値を基に強み弱みを分析し、「分かる授業」づくりを進めるとともに課題となっている家庭学習の充実などの取組を施策として進めていく必要がある。

生徒指導上の課題としてまず不登校及び不登校傾向児童生徒について、小学校では平成30年度より、中学校では令和元年度より、増加傾向である。児童生徒間、教員と児童生徒間、学校と家庭との信頼関係を高めることが必要である。また教育支援センターは児童生徒、家庭に対し丁寧に対応し、学校復帰に向け成果を挙げている。問題行動の件数はここ数年減少している。いじめの認

知件数は減少してきており、引き続き早期発見に気を緩めることなく取り組む必要がある。

文化財課の事業では、史跡富田城整備事業を今年度終了した。5年間の事業期間中、樹木の伐採による視認性の向上を図った。歴史資料館にはガイダンス施設を設置し、観光客や児童生徒のふるさと教育等を通してその魅力を発信することとした。加納美術館では令和2年度から3年度にかけリニューアル工事を行い6月19日リニューアルオープンした。また、比田地区の市原たたら発掘調査を行い現地説明会を実施した。

給食教育課関係では、今年度で自校方式による給食の提供を終了し、令和4年度より小中学校全22校と安来幼稚園に約3,300食を給食センターより配食することとなっている。また、給食費の公会計化を令和5年度を目途に実施することとした。食材費や調味料費が上昇してきており、令和4年度より1食あたり10円値上げをすることとした。

社会教育関係は地域振興課、文化・スポーツ関係は文化スポーツ振興課が補助執行している。小中学校適正配置の検討は地域づくりと密接に関係しており令和4年度より「交流センターを核とした地域づくり検討会」を発足し検討に入ることとなった。

結局、令和3年度は、定例教育委員会を12回開催した。1年間を通して審議案件は全部で32件、報告事項は35件であった。前述したものを除き主なものをあげれば、教育政策推進会議について、安来市小中学校適正配置基本方針について、議会上程議案、ALTの配置について、不登校・問題行動の状況学力調査の状況などを審議した。

勝部慎哉教育長が令和3年3月任期満了となり退任し、4月から秦誠司教育長が就任した。また、令和3年11月8日教育委員の岡本亮啓委員が任期満了で退任し、新たに11月9日から4年間平野千恵委員が就任した。

また、教育委員会事務局は広瀬庁舎2階にあったが、安来中央交流センター改修を契機に同所1階フロアーに移転し、令和4年1月より業務を開始した。

令和3年度 教育委員会開催一覧

委員会名	開催日
第235回4月定例教育委員会	令和3年 4月22日
第236回5月定例教育委員会	令和3年 5月25日
第237回6月定例教育委員会	令和3年 6月29日
第238回7月定例教育委員会	令和3年 7月28日
第239回8月定例教育委員会	令和3年 8月24日
第240回9月定例教育委員会	令和3年 9月29日
第241回10月定例教育委員会	令和3年10月25日
第242回11月定例教育委員会	令和3年11月18日
第243回12月定例教育委員会	令和3年12月20日
第244回1月定例教育委員会	令和4年 1月17日
第245回2月定例教育委員会	令和4年 2月 7日
第246回3月定例教育委員会	令和4年 3月24日

令和3年度 教育委員会審議案件等一覧

教育委員会会議 審議案件

番号	件 名	提出日
1	教育長の営利企業等の従事について	R3. 4. 22
2	教育政策推進会議について	R3. 4. 22
3	安来市社会教育委員の委嘱について	R3. 5. 25
4	安来市教育支援委員の委嘱について	R3. 5. 25
5	安来市文化財保護委員の委嘱について	R3. 5. 25
6	安来市教育委員会事務局組織規則の一部改正について	R3. 5. 25
7	安来市教育委員会の権限に属する事務の補助執行に関する規則の一部改正について	R3. 5. 25
8	安来市教育機関情報管理委員会設置規程の一部改正について	R3. 5. 25
9	市議会 6 月定例会議上程議案（予算）について	R3. 5. 25
10	市議会 7 月定例会議上程議案（予算）について	R3. 6. 29
11	安来市教育委員会押印等の見直しに伴う関係規程の整備に関する規則の制定について	R3. 7. 28
12	安来市立学校文書取扱規程の一部改正について	R3. 7. 28
13	令和 2 年度安来市教育委員会点検・評価報告書について	R3. 7. 28
14	令和 4 年度使用安来市立中学校用教科用図書について	R3. 7. 28
15	安来市史跡公園条例施行規則の一部改正について	R3. 8. 24
16	市議会 9 月定例会議提出議案（条例）について	R3. 8. 24
17	市議会 9 月定例会議提出議案（予算）について	R3. 8. 24
18	教育政策推進会議について	R3. 9. 29
19	安来市立学校管理規則の一部を改正する規則について	R3. 10. 25
20	安来市いじめ問題対策連絡協議会等の委員委嘱について	R3. 10. 25
21	市議会 1 2 月定例会議提出議案（条例）について	R3. 11. 18
22	市議会 1 2 月定例会議提出議案（予算）について	R3. 11. 18

番号	件名	提出日
23	安来市立小中学校の教育職員の業務の量の適切な管理に関する規則の制定について	R4. 1. 17
24	安来市小中学校適正配置基本方針について	R4. 1. 17
25	安来市小中学校適正配置審議会条例の制定について	R4. 2. 7
26	市議会 3 月定例会議提出議案（予算関係）	R4. 2. 7
27	安来市小中学校適正配置基本方針について	R4. 2. 7
28	教職員の人事について	R4. 2. 7
29	安来市小中学校適正配置審議会傍聴規則の制定について	R4. 3. 24
30	安来市共同学校事務室運営規程の制定について	R4. 3. 24
31	安来市教育委員会に属する県費負担教職員の訓告等取扱規程の制定について	R4. 3. 24
32	令和 4 年度工事予定について	R4. 3. 24

教育委員会会議 報告事項

番号	件名	提出日
1	安来市スポーツ推進審議会委員の任命及び委嘱について	R3. 5. 25
2	安来市教育政策推進会議について	R3. 5. 25
3	令和2年度不登校・問題行動等の状況について	R3. 5. 25
4	市議会6月定例会議報告	R3. 6. 29
5	加納美術館リニューアル工事について	R3. 6. 29
6	第1回安来市教育政策推進会議について	R3. 6. 29
7	市議会7月定例会議報告	R3. 7. 28
8	A L Tの配置について	R3. 7. 28
9	大雨に係る対応について	R3. 7. 28
10	新型コロナウイルス感染症に関する対応について	R3. 7. 28
11	市議会8月緊急会議報告	R3. 8. 24
12	第2回安来市教育政策推進会議報告	R3. 8. 24
13	市議会9月定例会議報告	R3. 9. 29
14	全国学力・学習状況調査について	R3. 9. 29
15	1学期不登校・問題行動等の状況について	R3. 9. 29
16	令和4年度センター式給食について	R3. 9. 29
17	新規A L Tについて	R3. 9. 29
18	スポーツ推進審議会委員の任命について	R3. 10. 25
19	安来市教育政策推進会議について	R3. 10. 25
20	安来市成人式について	R3. 11. 18
21	公立幼児教育・保育施設の在り方について	R3. 11. 18
22	市議会11月開会会議報告	R3. 11. 18
23	学校給食費の公会計化及び単価改定について	R3. 11. 18
24	安来市教育政策推進会議について	R3. 11. 18

番号	件名	提出日
25	市議会12月定例会議報告	R3.12.20
26	安来市教育政策推進会議について	R3.12.20
27	市原たたら発掘調査について	R3.12.20
28	新型コロナウイルス感染症の対応について	R4.2.7
29	令和3年度卒業式・4年度入学式について	R4.2.7
30	市議会3月定例会議について	R4.3.24
31	令和3年度島根県学力調査結果について	R4.3.24
32	2学期不登校・問題行動等の状況について	R4.3.24
33	スポーツ推進審議会委員お委嘱（任命）について	R4.3.24
34	令和4年度幼稚園・認定こども園入所決定状況について	R4.3.24
35	人事について	R4.3.24

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	教育委員会業務	課名	教育総務課
-------	---------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	教育行政の活性化。 教育委員の資質向上。
	対象 (誰・何を対象として)	教育委員
	手段 (どのようなやり方で)	教育委員会の開催、総合教育会議出席、各種研修会参加、学校訪問。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	上記手段により、県教育委員会及び学校との連絡を密にし、教育問題への対処、教育行政の円滑化、活性化を図る。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	8,225	
	財源内訳	一般財源	8,214
		国庫支出金	0
		県支出金	0
		地方債	0
		その他	11

【実績】

実績	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会(定例会12回)の開催。 ・教育委員会に関する規則等の制定・改廃、工事計画に関する審議、各教育問題に関する協議を行った。 ・新型コロナの影響で外部研修等の機会は限られており、参加できなかったが、市内での学校訪問を実施し、各校の取り組みの成果や課題を把握することができた。 ・教育政策推進会議の提言を踏まえ、総合教育会議、教育委員会会議での議論により「安来市立小中学校適正配置基本方針」を策定した。
----	---

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>未来を生きる子ども達に必要とされる能力を十分育むことのできる学校教育の実現を第一として、法律に基づき、事務局と連携して、必要な施策を推進していく。併せて、学校現場との連携のもと、不登校や問題行動、部活動のあり方、教員の働き方、地域社会との協働等の諸課題に対応していく。</p> <p>特に、小中学校の適正配置に係る検討に際しては、視察研修等を通じた情報収集、地域や保護者との意見交換、適正配置審議会での審議等を踏まえながら、より具体的な方向性を見出していくこととし、「安来市立小中学校適正配置基本計画」の策定に向け、議論を進める。</p>
-----------	--

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	学校施設管理事業	課名	教育総務課
-------	----------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	学校運営の円滑化及び教育の充実を図るため。
	対象 (誰・何を対象として)	学校施設(学校児童、生徒、教職員)。
	手段 (どのようなやり方で)	学校を運営して行く上で必要な経費を確保し、学校の維持管理を行う。また、設置設備等の安全な運転と法令等を遵守できる状態に維持するため清掃、保守点検業務を執行する。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	学校の維持管理の徹底及び教育環境の安全確保と向上。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	244,112	
	財源内訳	一般財源	238,163
		国庫支出金	0
		県支出金	0
		地方債	0
		その他	5,949

【実績】

実績	<p>【学校施設維持・管理事業】 学校を運営していく上で必要な経費を確保し、学校運営の充実を図った。また、設置設備等の安全な運転と法令等を遵守できる状態に維持するため清掃、保守点検業務を執行した。 校務支援システムの導入に合わせ、学校事務職員の使用するシステムの運用変更を行い、事務の効率化や経費削減を行った。</p>
----	--

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>学校の円滑な管理運営のため、各学校へ予算配分を行い、効率的な予算執行を行う。 体育教育、体力向上において必要な体育備品の設置や、経年劣化により修理が必要な遊具等について、計画的に設置、更新を行う。</p>
-----------	--

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	学校施設整備事業	課名	教育総務課
-------	----------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	学校運営の円滑化及び教育の充実を図るため。
	対象 (誰・何を対象として)	学校施設(学校児童、生徒、教職員)。
	手段 (どのようなやり方で)	施設の破損、劣化等による危険箇所を確認し、予算に基づき維持修繕、営繕工事を執行する。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	施設の維持管理の徹底及び教育環境の安全確保と向上。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	196,512	
	財源内訳	一般財源	17,207
		国庫支出金	29,905
		県支出金	0
		地方債	135,000
		その他	14,400

※国庫支出金のうち「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」分 19,983

【実績】

実績	<p>主な工事</p> <ul style="list-style-type: none"> ・給食配膳室整備工事(島田、布部、山佐、井尻、赤屋小) ・空調設備等改修工事(社日、島田、宇賀荘、南、母里、井尻小、三中、広瀬中) ・トイレ改修工事(宇賀荘、荒島、広瀬、安田、母里小、一中、三中、伯太中) ・屋上防水工事改修工事(南、赤屋小) ・マンホールポンプ設置工事(二中) ・下水道設備等整備工事(二中) ・下水道設備等整備工事(二中) ・屋内運動場照明設備改修工事(広瀬中) <p>令和2年から令和3年度への繰越事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・手洗い場改修工事(荒島、南、赤江、広瀬、安田、母里、赤屋小、三中)

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>児童生徒が安全で安心して生活できるよう、日頃から学校現場において、施設の破損、老朽等による危険箇所を確認しているが、修繕等が必要な施設が多く、また修繕費が高額となる内容の物も多くなっている。学校施設の長寿命化計画に基づき、今後の大規模修繕(リフレッシュ工事等)について検討し、計画的に実施する。</p> <p>また、小規模な修繕箇所については、学校施設の利用者の安全と安心の確保を前提として、適宜実施する。</p>
-----------	--

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	学校給食管理事業	課名	教育総務課
-------	----------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	安心安全な給食の実施及び食育の推進。
	対象 (誰・何を対象として)	学校児童、生徒、教職員。
	手段 (どのようなやり方で)	徹底した食品管理及び衛生管理。 食育に関する情報提供。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	食中毒の発生防止、異物混入の際の迅速な対応を強化し、安心安全な給食を提供する。また食育を通じ、児童・生徒の健全な発育を助ける。

【必要経費】

項目		金額（千円）	
事業費	①事業費	23,343	
	財源内訳	一般財源	8,018
		国庫支出金	0
		県支出金	0
		地方債	0
		その他	15,325

【実績】

実績	小学校 自校方式での給食実施校 6校 献立検討会、研修会の開催 各月1回 調理師、栄養職員対象の食品衛生管理研修開催
----	--

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	給食センターへの完全移行に備え、備品整理・修繕等を行った。 各学校の給食は、安定して提供することができた。 衛生管理、異物混入防止の徹底に努め、食育活動や地産地消も推進できた。 令和3年度をもって自校給食は終了し、令和4年度からは給食センターへ完全移行する。
-----------	--

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	給食センター管理事業	課名	給食教育課
-------	------------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	安全安心な給食の実施及び食育の推進。
	対象 (誰・何を対象として)	幼稚園・学校の児童、生徒、教職員。
	手段 (どのようなやり方で)	徹底した食品管理及び衛生管理。 食育に関する情報提供。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	食中毒の発生防止、異物混入の際の迅速な対応を強化し、安全安心な給食を提供する。また食育を通じ、児童、生徒の健全な発育を推進する。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	213,658	
	財源内訳	一般財源	210,255
		国庫支出金	0
		県支出金	0
		地方債	0
		その他	3,403

【実績】

実績	調理・配送委託による運営を実施。約3,000食を196日配食した。 幼稚園 1園、小学校 11校、中学校 5校 各種会議を実施した。年間利用者延べ約580人。 毎月の献立表に地元(安来産)食材の紹介や季節食、行事食等の紹介のための放送原稿を作成し、毎日給食時に校内放送を実施した。
----	---

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	衛生管理、異物混入防止の徹底に努め、引き続き安全安心かつおいしい給食の提供に努める。 食育活動や地産地消を推進し、子どもたちが学校給食を通して、食に関する正しい知識と望ましい食習慣を身につけることができるよう、今後も努めていく。
-----------	---

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	教育振興事業	課名	学校教育課
-------	--------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	児童生徒の学習環境を整えることにより学習意欲の向上を図り、創造性豊かな学習を実践する。
	対象 (誰・何を対象として)	市内全小中学校児童生徒
	手段 (どのようなやり方で)	<ul style="list-style-type: none"> 授業等で必要となる教材備品、図書及び教師用指導書等を整備する。 遠距離通学の児童生徒について、登下校にかかる通学費を補助する。 新型コロナウイルス感染症拡大による修学旅行キャンセル料及びバス増便分の支払いを行う。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	<ul style="list-style-type: none"> 教材備品等を充実させて学習環境を整え、児童生徒の創造性豊かな学習を実践する。 通学費の補助および修学旅行キャンセル料及びバス増便分の費用を負担することにより、保護者の負担の軽減と義務教育の円滑な実施を図る。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	92,782	
	財源内訳	一般財源	45,891
		国庫支出金	5,349
		県支出金	34
		地方債	0
		その他	41,508

※国庫支出金のうち「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」分 1,760

【実績】

実績	<p>主な教育振興費</p> <p>【教材整備費】 小学校 9,198千円 中学校 15,615千円</p> <p>【理科教育等設備整備費】 小学校 4,296千円 中学校 1,160千円</p> <p>【ICT環境推進事業】 小学校 28,131千円 中学校 15,472千円</p> <p>【遠距離通学費】 小学校 3,571千円 中学校 4,447千円</p> <p>【小中学校修学旅行支援事業】 小学校 869千円 中学校 690千円</p> <p>【部活動地域指導者活用支援事業】 中学校 3,218千円</p>
----	---

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>教材備品、図書等の継続的な整備はもとより、ICT活用教育についても学習用端末等をさらに有効活用できるよう授業支援用ソフトやデジタル教科書などの教材整備や教員研修を行っていく。</p> <p>また、引き続き通学費の補助や新型コロナウイルス感染症拡大による修学旅行のキャンセル料等の経費負担を行うことにより、保護者負担の軽減を図る。</p> <p>中学校部活動については、国の構想等を見据えつつ、生徒がより充実した環境で部活動が行えるよう支援を行っていく。</p>
-----------	---

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	ふるさと教育推進事業	課名	学校教育課
-------	------------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	それぞれの地域において、様々な知識や技能を持った「ひと」との関わりを大切にしながら、安来の教育資源となる「ひと」「もの」「こと」を活用し、児童・生徒の発達段階に応じて学習活動を実施し、ふるさとに愛着と誇りを持ち、地域に貢献する心情を育成する。
	対象 (誰・何を対象として)	市内小中学校、児童、生徒
	手段 (どのようなやり方で)	地域のひと・もの・ことを生かした「ふるさと教育」を年間35時間以上展開
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	ふるさとの愛着と誇りの醸成、地域課題への関心を持ち、地域に貢献しようとする意欲の喚起。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	6,934	
	財源内訳	一般財源	1,029
		国庫支出金	80
		県支出金	1,725
		地方債	0
		その他	4,100

※国庫支出金のうち「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」分 80

【実績】

実績	<p>市内小中学校の全学年・全学級で、地域の教育資源ひと・もの・ことを活用し、9年間を通した系統的・発展的な学習活動を実施した。また、転入教職員ふるさと教育研修会や学校と交流センターが連携・協働するための学校と地域の連携実践研修会を開催し、ふるさと教育に携わるひとづくりを推進した。</p> <p>ふるさとに根ざした道徳教育推進事業では、ふるさとの偉人に学ぶことにより、ふるさとに対する誇りと愛着の心情を育んだ。</p>
----	--

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>今後も地域の教育資源を有効に活用し、充実したふるさと教育を各校が展開していけるように必要な働きかけや環境の整備を継続する。</p> <p>新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動を制限せざるを得ない状況が続いているが、感染症対策やオンラインの活用等を行い、児童・生徒が「ふるさと」とのつながりをもち続けられるよう工夫してふるさと教育を推進する。</p>
-----------	--

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	外国語指導事業	課名	学校教育課
-------	---------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	市内各校園へ外国語指導助手(ALT)6名を配置し、児童・生徒がALTと接することにより、外国語(英語)を身近に感じることで、語学を通して他国の文化への興味・関心を養うとともに、コミュニケーション能力の向上を図る。
	対象 (誰・何を対象として)	①(公立)特定教育保育施設に通う 幼児 ②安来市立小学校 児童 ③安来市立中学校 生徒
	手段	①特定教育保育施設に訪問し、幼児と遊びや活動をともにする。 ②③全小・中学校を訪問し、外国語活動における学習や活動、外国語科の学習を支援する。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	・ALTとのコミュニケーションを通して、異文化を理解したり、尊重したりする態度や能力を養い、早期からグローバル感覚を養うことができる。 ・ネイティブスピーカーの英語の発音や表現に触れたり、文法などについて聞いたりすることを通して学習を充実させ、グローバル感覚をもった人材育成を図ることができる。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	21,855	
	財源内訳	一般財源	21,808
		国庫支出金	0
		県支出金	0
		地方債	0
		その他	47

【実績】

実績	ALT6名(4~7月・4名、8~10月・2名、11月~3月・6名)で、特定教育保育施設14ヶ所、小学校17校、中学校5校に巡回訪問をした。 幼児期からネイティブな音声表現に触れる機会を持つことで、外国語コミュニケーション能力の向上を図るとともに、他国文化への興味・関心を養うなど、国際理解教育を推進した。 中学校では、島根県学力調査の英語において、全てのカテゴリーで1年生、2年生ともに正答率ポイントが島根平均より高くなっている。
----	---

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	昨年度は、新型コロナウイルスの感染拡大によりALTの来日が大きく遅れ、年間を通じてALT6名を確保することができなかった。今後もこういった事態が起こることは想定されるが、巡回訪問計画等を随時見直しながら継続して外国語指導の実施を行っていく必要がある。 令和2年度より小学校5年生以上で外国語が教科となるなど、外国語教育の重要性は益々高まっている。今後もこの体制を維持しながら、外国語指導事業の充実を図っていきたい。
-----------	--

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	学校図書館活性化事業	課名	学校教育課
-------	------------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	読書活動と学校図書館活用教育の推進を図る
	対象 (誰・何を対象として)	市内小中学校22校
	手段 (どのようなやり方で)	・各小中学校図書館に学校司書を配置し、「読書センター」「学習センター」「情報センター」としての機能を果たす ・教育委員会に学校図書館支援センタースタッフを置き、学校司書への支援や、学校図書館相互、公共図書館との連絡調整を行う
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	学校図書館機能の充実が図られ、児童生徒の豊かな心の育成や自発的・主体的な学習活動に効果がある

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	48,433	
	財源内訳	一般財源	32,029
		国庫支出金	0
		県支出金	16,284
		地方債	0
		その他	120

【実績】

実績	<p>市内の全小中学校に学校司書を配置し、読書活動の推進や学校図書館を効果的に活用できるよう、児童生徒への支援を行った。あわせて学びのサポーターとして児童生徒の居場所づくりや個別の児童生徒に合わせた図書の提供などを行った。</p> <p>また、学校図書館支援センタースタッフを学校教育課に配置し、継続的に学校を訪問して学校司書の支援にあたりとともに、学校図書館相互、公共図書館との連絡調整を行うなど、コーディネート役として関わった。</p> <p>その結果、児童生徒の発達段階に応じた図書に出会わせるための様々な取組が展開され、豊かな心の育成を図る「読書センター」としての役割を果たした。</p> <p>また、学習支援のための資料の整備・充実を図り、「学習センター」「情報センター」として機能させるとともに、学校司書の専門性を高め、支援するための研修を行った。</p>
----	--

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>引き続き市内全小中学校への学校司書配置を行い、読書活動の推進や学校図書館の効果的な活用による児童生徒への支援を行っていく。また、学校司書による学びのサポートとして、児童生徒の居場所づくりやICTを活用した授業のサポートにも取り組んでいく。</p> <p>また、学校司書に求められる役割が大きくなってきている中で、学校図書館支援センターによる学校訪問や公共図書館等との連絡調整に加え、ICT活用のための研修等を開催し、学校司書の活動に合わせた支援を行っていく。</p>
-----------	--

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	就学移行支援事業	課名	学校教育課
-------	----------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	何らかの支援を必要とする可能性のある幼児に早期から気づいていくとともに、子どもたちを支えるためのより良い関わりを考えていく。子どもや保護者が笑顔で就学を迎えることができるよう、移行支援の充実につなげる。
	対象 (誰・何を対象として)	市内居住の5歳児および保護者。
	手段 (どのようなやり方で)	事前に保護者・保育士及び幼稚園教員にアンケートを配布し、提出のあった者に相談会への案内を送り「5歳児相談会」を実施する。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	子どもの発達状況を保護者が把握するきっかけとなったり、就学に向けた適切な対応を考えたりすることで、小学校への移行を円滑にする効果がある。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	658	
	財源内訳	一般財源	658
		国庫支出金	0
		県支出金	0
		地方債	0
		その他	0

【実績】

実績	<p>「相談あり」と回答した保護者へ5歳児相談会の案内を行い、計7回相談会を実施した。医師による観察・問診と発達相談等により、継続的な対応や支援が必要と考えられる幼児には、保護者との電話相談等を継続して行った。また、保護者相談への対応として、「すこやか教室」での療育活動や、子ども未来課と連携しながらの観察・助言等を行った。</p> <p>5歳児273人に対し、アンケート返却数は236人(86.4%)、相談対応数68人(24.9%)だった。相談対応のうち、5歳児相談会並びに個別相談数は21件(全対象児の7.7%)だった。</p>
----	--

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>近年事業の認知度が上がってきており、アンケートの回収率は高い水準となっている。但し、アンケートは保護者が回答するため、保護者に気づきがない場合には「相談なし」として回答されてしまう。そのため、保育士及び幼稚園教員へもアンケートを実施しているが、保育施設と家庭では様子が異なる場合もあり、支援を必要とする可能性のある全ての幼児について把握することは難しい。</p> <p>今後は、より多くの幼児について把握及び支援をしていくため、各保育施設や子ども未来課とより一層連携していく必要がある。</p>
-----------	--

教育委員会点検・評価シート

事務事業名	教育支援センター運営事業	課名	学校教育課
-------	--------------	----	-------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	教育支援センターに通所できる不登校児童・生徒の集団生活への適応、基本的な生活習慣定着支援、様々な体験の充実、学力の向上を図る。
	対象 (誰・何を対象として)	不登校児童・生徒及びその保護者。
	手段 (どのようなやり方で)	教育支援センターの運営・設備及び相談員・支援員の配置。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	不登校児童・生徒の社会的自立を図る。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	18,439	
	財源内訳	一般財源	3,879
		国庫支出金	1,560
		県支出金	0
		地方債	0
		その他	13,000

※国庫支出金のうち「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」分 1,560

【実績】

実績	<p>教育支援センターへ23名の児童生徒が通所した。 児童生徒及び保護者から、来所及び電話による教育相談を延べ84回、家庭及び学校への訪問指導を43回実施した。 また、不適應の主たる原因が特性に起因すると考えられる児童生徒もいるという実態があり、学校教育課に配置されている特別支援教育専任の指導講師とも連携して支援を行った。</p>
----	--

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>近年、不登校児童生徒が大きく増加しており、教育支援センターの需要がさらに高まっているが、施設や人員の関係で受け入れ人数には限りがある状況である。また、特性による不適應や不登校に対する知識・技能を持ち合わせた職員の確保も課題である。 今後の方向性としては、児童生徒や保護者に寄り添った指導を継続し、児童生徒の居場所の確保や社会的自立への援助を続けていく。</p>
-----------	---

教育委員会 点検・評価シート

事務事業名	文化財保護事業	課名	文化財課
-------	---------	----	------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	市内の文化財を保護・活用することにより、地域づくり、まちづくりの振興に寄与する。
	対象 (誰・何を対象として)	市民、観光客、土地開発事業者等。
	手段 (どのようなやり方で)	史跡等の文化財については、修繕や公園内の草刈等を委託し維持管理を行う。埋蔵文化財については、発掘調査を行い、詳細な記録をとる。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	史跡公園の環境美化に努めることにより、遺跡の保護と地域の活性化及び交流人口の拡大を図る。埋蔵文化財の有無を調べることにより、開発事業等の円滑化を図る。

【必要経費】

項 目		金額 (千円)	
事業費	①事業費	31,597	
	財源内訳	一般財源	13,604
		国庫支出金	9,172
		県支出金	0
		地方債	8,800
		その他	21

※国庫支出金のうち「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」分 1,463

【実績】

実績	<p>【文化財総務事業】 市内の文化財の保護と活用を行うため、文化財保護委員などの専門的な知見を通じて、調査検討を進めた。 たたら関係事業として、「鉄の積出港安来の調査研究」の報告書作成、市原たたら発掘調査を実施した。また県指定文化財広瀬緋の製作技法の映像記録作成事業に補助金を交付した。</p> <p>【文化財総務事業(繰越明許)】 歴史資料館など4施設において、新型コロナ対策として、手洗いの自動水栓化を実施した。</p> <p>【発掘調査事業】 各種開発事業を円滑に進めるため、開発予定地の試掘調査を実施。黒井田地区工業団地、宇賀荘地区ほ場整備、清井廃棄物処理場の試掘確認調査を行った。</p> <p>【史跡公園管理事業】 史跡公園および指定遺跡の草刈等の維持管理を行い、史跡の保全と清掃活動に努めた。特に富田城跡七曲りの樹木伐採を実施し、山吹井戸からの景観を確保した。古代出雲王陵の丘造山公園においては、指定管理者による委託管理を行い、また駐車場の男子トイレの簡易水洗化および女子トイレ目隠し工を行った。</p> <p>【史跡公園災害復旧事業】 令和2年7月豪雨で崩落した造山公園の法面復旧工事を実施した。 令和3年7月豪雨、台風9号により被災した造山公園、塩津山古墳、富田城跡の災害復旧工事などを行った。</p>
----	--

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>【課題】 ・文化財保存活用－指定文化財等の老朽化、新たな文化財の指定、各種開発事業との円滑な調整 ・史跡公園維持管理－適切な維持管理、災害の増加、協力団体の高齢化</p> <p>【方向性】 ・文化財保存活用－文化財保存活用地域計画の策定の検討、保存修理事業、各種調査を行う。 ・史跡公園維持管理－地元ボランティア団体・所有者等との連携、指定管理制度の導入、災害復旧を行う。</p>
-----------	---

教育委員会 点検・評価シート

事務事業名	史跡富田城整備事業	課名	文化財課
-------	-----------	----	------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	地域のシンボルとなるよう整備する。
	対象 (誰・何を対象として)	史跡富田城跡および周辺の遺跡等。
	手段 (どのようなやり方で)	城跡を顕在化するような整備、活用を行う。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	観光資源、生涯学習の場として活用できるようになる。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	52,356	
	財源内訳	一般財源	8,420
		国庫支出金	23,789
		県支出金	1,947
		地方債	18,200
		その他	0

【実績】

実績	<p>【史跡富田城跡整備事業】 史跡富田城跡を地域のシンボルとして、観光資源、生涯学習の場として活用できるよう、城跡の顕在化を図る整備を進めてきた。最終年度の令和3年度は、千畳平石垣保護工事、道の駅広瀬富田城案内板設置工事、歴史資料館のガイダンス施設整備、事業報告書刊行を実施した。</p> <p>【史跡富田城跡発掘調査事業】 遺構の整備活用に先立ち、千畳平石垣の確認及び過年度の試掘調査の埋め戻し、航空レーザー測量による地形に関わる情報収集、令和2年度に実施した測量成果の図化を実施した。</p>
----	---

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用－郷土愛の醸成、交流人口の拡大により定住に結び付ける。 ・維持管理・価値の向上－美観の維持と、遺跡の保存を続ける。調査研究により価値を高める。 <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活用－情報発信、関連行事の推進、生涯学習・学校教育・観光との連携などを行っていく。 ・維持管理・価値の向上－適切な維持管理、環境保全活動の推進、測量範囲拡大等を行っていく。
-----------	---

教育委員会 点検・評価シート

事務事業名	図書館・博物館等管理運営事業	課名	文化財課
-------	----------------	----	------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	図書館(やすぎ図書館、はくた図書室、ひろせ図書室)、博物館等(和鋼博物館、金屋子神話民俗館、市立歴史資料館、市立民俗資料館)の入館者が快適に利用できるよう、管理・運営を行う。
	対象 (誰・何を対象として)	市民、観光客等。
	手段 (どのようなやり方で)	図書館においては、市民のニーズに合った図書の選定、情報提供、レファレンス等を行う。 博物館等においては、企画展の開催、研究活動、地域との連携を図る。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	図書館においては、読書活動を盛んにして、よりよい生涯学習社会を構築する。 博物館等においては、郷土の文化・歴史・民俗等に関する資料を展示して、地域文化の発展に寄与する。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	119,258	
	財源内訳	一般財源	106,355
		国庫支出金	9,565
		県支出金	0
		地方債	0
		その他	3,338

※国庫支出金のうち「新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金」分 9,565

【実績】

実績	【図書館管理運営事業】 来館者が快適に過ごせるよう各図書館の施設管理に努めるとともに、利用者が満足できる図書資料を作成し、レファレンスサービスの充実を図った。
	【図書館管理運営事業(繰越明許)】 やすぎ図書館内こども図書館に空調機器を2台整備し、新型コロナウイルス感染症対策の機能を配備した。
	【博物館等管理運営事業】 来館者の目的に応えるよう、説明の充実や施設管理に努めた。

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	●図書館 【課題】・図書館利用機会の拡大と利用者の満足度の向上、保守業務終了に伴うシステム更新 【方向性】・各種事業により利用者サービスの向上に努めるとともに、図書館事業利用実態に合わせた開館時間を検討する。また、システムを計画的に更新する。
	●博物館等(和鋼博物館、金屋子神話民俗館、市立歴史資料館、市立民俗資料館) 【課題】・施設利用者の拡大と施設の老朽化等 【方向性】・展示や各種事業を充実させるとともに、老朽化に伴う施設の再構成及び展示リニューアル、長寿命化を計画的に行う。

教育委員会 点検・評価シート

事務事業名	文化振興事業	課名	文化財課
-------	--------	----	------

【事務事業の概要】

事業の内容	目的 (何のために)	芸術文化を愛好する市民や観光客に作品鑑賞の場を提供し、文化振興の推進に寄与する。
	対象 (誰・何を対象として)	安来市民、観光客等。
	手段 (どのようなやり方で)	安来市加納美術館においては指定管理者制度を導入し、管理を委託する。
	成果 (どのような効果を得ようとしているのか)	安来市の文化振興に寄与し、作品を鑑賞すること等で観光振興や市民の芸術文化への関心を高める。

【必要経費】

項目		金額(千円)	
事業費	①事業費	73,859	
	財源内訳	一般財源	9,659
		国庫支出金	0
		県支出金	0
		地方債	64,200
		その他	0

【実績】

事業実績	【安来市加納美術館管理事業】 指定管理者に管理運営を委託し、施設管理と展示・企画運営を行った。令和2年度より実施した改修工事のために年度当初は休館しており、6月にリニューアルオープンした。
	【安来市加納美術館改修事業】 令和2年度からの継続事業。多様な展示に対応可能な展示室への改修、機能強化した収蔵庫の設置、バリアフリー機能強化などの改修工事を完了した。

【課題・今後の方向性】

今後の課題・方向性	<p>【課題】 時代に対応した美術館活動の展開(平和、コロナ)、郷土ゆかりの芸術家の啓発</p> <p>【方向性】 指定管理者による運営の経験と実績を活かし、各種団体や学校などと連携して、地域に根ざした事業を行い、地域の美術、文化活動の振興を図る。</p>
-----------	--